



おのえまつや
尾上松也 【二代目 音羽屋】

昭和 60 年 1 月 30 日生まれ。六世尾上松助の長男。平成 2 年 5 月歌舞伎座『伽羅先代萩』の鶴千代で二代目尾上松也を名のり初舞台。舞台映えする端正な容姿と地道な努力で若手を牽引し、ここ数年は初役も多く、6 年連続でリーダー格で出演する新春浅草歌舞伎では『菅原伝授手習鑑 寺子屋』の松王丸、『仮名手本忠臣蔵 祇園一力茶屋の場』の大星由良之助という大役を勤めた。自主公演「挑む」を開催し、歌舞伎への研鑽を積む一方、歌舞伎以外にも劇団☆新感線公演『メタルマクベス』disc2 で主演するなど、ミュージカル、ドラマと幅広く活躍している。



なかむらばいし
中村梅枝 【四代目 萬屋】

昭和 62 年 11 月 22 日生まれ。中村時蔵の長男。平成 3 年 6 月歌舞伎座『人情裏長屋』の沖石一子鶴之助で小川義晴の名で初お目見得。6 年 6 月歌舞伎座にて四代目中村梅枝を襲名し初舞台。たおやかな佇まいが目を引く若手女方。古典の修業に専念して地力を蓄え、近年は大役が続き、その一つに坂東玉三郎の指導のもと琴や胡弓の稽古に励んだ、女方至難の役『阿古屋』があげられる。一方で、コクーン歌舞伎『切られの与三』のお富では、古典と新演出の狭間の絶妙な演技で魅せ、踊りも『近江のお兼』『二人椀久』と、着実にレパートリーを増やしている。



なかむらまんたろう
中村萬太郎 【初代 萬屋】

平成元年 5 月 12 日生まれ。中村時蔵の次男。6 年 6 月歌舞伎座『道行 旅路の嫁入』の旅の若者で初代中村萬太郎を名のり初舞台。よく通る明朗な声と、小気味いい動きが清々しい若手立役。古典の修業を積んできたが、近年は新作歌舞伎にも挑戦、演技の幅を広げている。コクーン歌舞伎『切られの与三』の伊豆屋与五郎では、生来の育ちの良さが生き、古典寄りの芝居で舞台を引き締めた。一方、再演を重ねる新作歌舞伎『あらしのよるに』の山羊たぶは、素顔の愛嬌が役に重なる。どんな役にも真摯に取り組み、将来が楽しみな存在である。



おおたにけいぞう

大谷桂三 【初代 十字屋】

昭和 25 年 6 月 11 日生まれ。新派の名わき役だった春本泰男の三男。31 年 1 月新橋演舞場で初舞台。二世尾上松緑の部屋子となり、34 年に尾上松也を名のる。39 年には、十四世守田勘弥の芸養子となり、四代目坂東志うかを襲名。48 年に大谷桂三と改名。端正な顔立ちで柔らかみのある二枚目の役柄から敵役、老け役まで幅が広い。最近では、『鎌倉三代記』富田六郎や『伊勢音頭恋寝刃』徳島岩次実は藍玉屋北六、『仮名手本忠臣蔵』斧九太夫などの老け役での味わいが増し、物語に奥行きを与える。



かみむらきちや

上村吉弥 【六代目 美吉屋】

昭和 30 年 4 月 27 日生まれ。48 年 8 月片岡我當に入門し、10 月大阪新歌舞伎座『新吾十番勝負』の寛永寺の僧ほかで片岡千次郎を名のり初舞台。平成 5 年 11 月南座『草摺引』の舞鶴ほかで六代目上村吉弥を襲名。令和元年 5 月オフシアター歌舞伎『女殺油地獄』母おさわ、9 月巡業『封印切』井筒屋おえん、12 月国立劇場『盛綱陣屋』微妙など、巧者な上方の女方である一方、連続出演しているシスティーナ歌舞伎では今年、立役として『NOBUNAGA』明智光秀を勤めた。